

年 組 名前：

ヤングケアラー 認知度が向上 中高生7割啓発効果か

日常生活で家族の介護や家事を過度に担う「ヤングケアラー」の認知度が、中高生で約7割に上がったことが、このも家庭庁の調査研究で分かった。2020年度の調査では2割を下回っており、こども

日常生活で家族の介護や家事の担当者は「国や自治体による広報チラシの配布や、学校への出前授業といった啓発活動の効果があった」としている。調査は25年12月～26年1月に実施し、全国の中学生約1

ヤングケアラーの認知度



※こども家庭庁の調査研究による。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

ズーム ヤングケアラー 日常生活で家族の世話を過度にして、いる子どもや若者のこり、健康状態に影響したりすること。介護・介助や、幼いきょうだいの世話、日本きょうだいの世話、アル育成支援推進法で、国や地方自治体が支援に努めるべき対象だと明記された。

「ヤングケアラー」についての認知度が、中高生で約7割に上がりました。どのような活動によって上昇しましたか。

「聞いたことがあり、内容も知っている」か「聞いたことはあるが、よく知らない」と答えた中高生は計約71%だった。中高生別で見ると、中学生は計約58%、高校生は計約83%だった。知った経路は中学生では「テレビや新聞、ラジオ」が最多で、学校「交流サイト(SNS)やインターネット」が

続いた。高校生は学校が最も多かった。小学6年の約6千人にも調査し、認知度は約46%だった。国はヤングケアラーの子どもたちを早期に発見し適切な支援につなぐため、認知度向上に力を入れている。22年度からの3年間は「集中取組期間」に設定。中高生における認知度を5割に高めることを掲げ、学校での出前授業などを強化した。

(2026年8月11日付 山梨日日新聞 19面)

問1

「ヤングケアラー」についての認知度が、中高生で約7割に上がりました。どのような活動によって上昇しましたか。

.....

.....

.....

問2

中学生がヤングケアラーを知る機会、最も多かった経路を教えてください。

.....

問3

ヤングケアラーには、どのような問題が起こると言われていますか。

.....

問4

あなたは、ヤングケアラーの人を支えるには、どのような対策が必要だと思いますか。

.....

.....